

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニシン

学名 *Clupea pallasii*

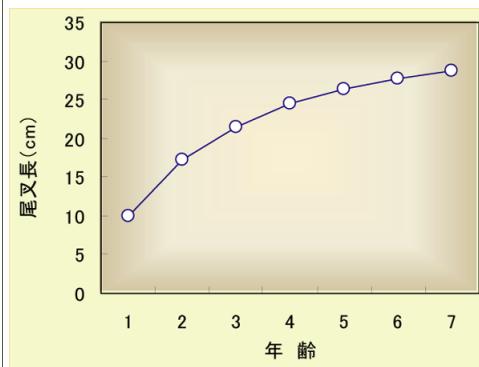
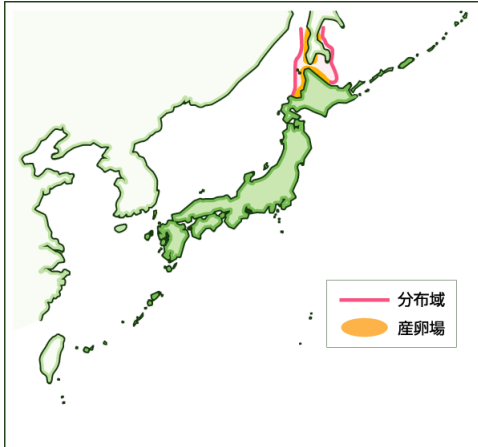
系群名 北海道・サハリン系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳以上
成熟開始年齢: 4歳(50%成熟年齢)
産卵期・産卵場: 3月下旬～5月上旬、近年、産卵親魚量の資源水準は極めて低いと推定され、産卵場はサハリン南部沿岸に形成されていると推定される
索餌期・索餌場: 北海道北部日本海～オホーツク海
食性: カイアシ類、端脚類、オキアミ類、魚類(卵・仔稚魚を含む)
捕食者: 不明

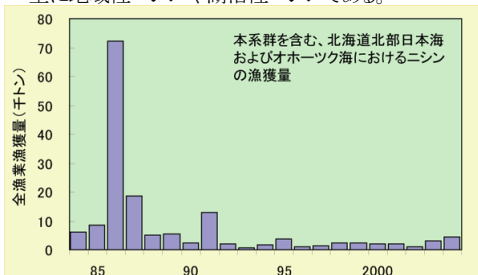


漁業の特徴

道北日本海～オホーツク海では北海道・サハリン系群の他、テルペニア系群、石狩湾系群、湖沼性ニシンなどが分布している。沿岸漁業による漁獲は、石狩湾以北の日本海沿岸や礼文島東岸、オホーツク海の枝幸、雄武、網走周辺で行われる。沖合底びき網(沖底)では道北日本海で秋～冬季に、オホーツク海では周年漁獲されている。時期と場所によって、成魚、未成魚、産卵群、索餌群、越冬群など、漁獲の対象が異なっている。

漁獲の動向

1897年に97万トン記録した北海道・サハリン系群のニシンの漁獲量は、増減を繰り返しながらも減少の一途をたどり、1955年以降北海道周辺での漁獲は皆無に等しい状態となった。1983年と1988年に北海道・サハリン系群とみられる豊度の高い年級が発生し、それぞれ1986年と1991年に漁獲量の増加をもたらしたが、その後の加入量が少なかったことや、これらの年級群への漁獲圧力が高まったことにより、資源の回復にはつながらなかった。近年の漁獲物は主に地域性ニシンや湖沼性ニシンである。



資源評価法

系群判別が難しく、資源水準の非常に低い現状では、本系群の漁獲量の把握は困難である。本系群に対する漁獲努力量などの情報も把握できていない。

資源状態

本系群のニシンは、近年その漁獲量の把握が困難となるほど漁獲量が低迷し、豊度の高い加入も見られない。資源水準は低位であるが、その動向は系群の漁獲量が不明であるため判断できない。

管理方策

かつては97万トンの漁獲があった本系群が、現在長周期の資源変動の底の部分にあるとすると、資源の絶滅を防ぐことが管理目標としてあげられる。しかし、本系群に対する漁獲規制は、ある系群を選別した漁獲が不可能であるため、また、他系群を含めた漁獲規制は、系群別の資源動向が一致していないことや、増殖事業の対象となっている系群があるため、難しい。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	—	—	—	—
ABCtarget	—	—	—	—

資源評価のまとめ

- 本系群のみを取り出した漁獲量の把握は困難
- 1955年以降、極めて低い資源水準にある

管理方策のまとめ

- 絶滅の防止

水準	動向
高位	不明
中位	
低位	

- 本系群の漁獲量が不明であり、ABC算定は不可能
 - 今後、卓越年級群が出現した場合には、これを保護して再生産の確保を図る必要がある
-

資源評価は毎年更新されます。